第8回 長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会

1. 開会

- 事務局より開会の挨拶

2. 挨拶

- 川原土木部長より挨拶

会議の成立、会議録署名人の指名

- 委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告
- 配布資料の確認
- 委員長が会議録の署名人として椎名委員、渡辺委員を指名
- 椎名委員、渡辺委員が承諾

3. 議事

(1) 第7回検討委員会の意見とその対応方針

- 「資料1」について事務局から説明
- 質疑応答
 - ・質疑なし

(2) 平和公園西地区の基本方針、ゾーニングとゾーン別整備方針、歩行者動線計画

(3) 平面配置イメージ図

- 「資料2」及び「資料3」について事務局から説明
- 質疑応答

【委員】

- ・私の発言がほぼ反映されている。指摘事項として、市民総合プールと広場周辺の600mのジョギングコースについて、形状の部分での配慮をお願いしたい。現状、ジョギングコースがCゾーンとDゾーンをまたぐ形になっており、イベント時には利用困難や衝突が懸念される。このため、代替案として以下を提案する。

- ジョギングコースをプール周辺のバイパスルートに変更。
- 8の字形やゾーン外周を利用し、特にDゾーンで完結できるよう配置。
- 必要に応じて庭球場周辺（Gゾーン・Hゾーン）への延長も検討。

ただしJゾーンの使用や庭球場の配置変更が必要になる可能性があり、関係団体と協議しながら具体案を整理していくことを提案する。

【事務局】

- ・今後の整備に関して、広場の使い方や必要な機能について様々な意見や助言を受けており、それらを踏まえながら進めたい。具体的には、プール周辺のバイパス整備について機能面から検討し、庭球場や弓道場へ伸びるルートについても健康維持の観点などを考慮しながら検討したい。

【委員】

- ・子供たちから陸上競技場を下水処理場跡地に移す案について市に確認してほしいとの要望があり、そこ（中部下水処理場跡地）で練習する際の交通費や小学生以下への対応方法について、市が何か考慮しているかどうかを確認したい。

【事務局】

- ・陸上練習の新しい場所への移動に関する交通費については、現時点では支給を考えていない。スポーツ施設の再配置に際してアクセス性の良い場所を選定し、その議論には関係者も参加した。また、新しいスタジアム近辺や中部下水処理場跡地の施設も、公共交通機関が整備されているため、松山町と同等またはそれ以上のアクセス性を有することから、交通費の支給は予定していない。

【委員】

- ・何かあった場合に考慮をすることは考えられるか。例えば子供たちとの対話をもって対応するとか、意見を聞くなど。

【事務局】

- ・陸上競技場に限らず他のスポーツ施設にも同様の対応をしており、現時点では同程度のアクセスを持つ場所として位置づけて考えている。

【委員】

- ・インターチェンジと既存道路との合流地点が直角に交差する構造について、既存道路の拡幅計画や城山地区に入る橋梁の拡幅が含まれていないが、計画が進む中で平和発信の広場が拡幅によって失われる可能性や、直角交差での信号による交通混雑の懸念があるため、道路拡幅にも対応可能なスペースを設けるべき。
- ・また、幹線道路がどの範囲まで繋がるかが不明瞭であり、インターチェンジ付近での交通渋滞は避けられず、近隣のプールやサッカー場、野球場でイベントが土日に集中する状況では既存道路が対応しきれない可能性が高いと考えられるため、これらの懸念を踏まえてさらなる深い検討が必要であると思う。

【事務局】

- ・インターチェンジにおける市道の混雑への懸念については、これまでも様々な形で問題が指摘されており、その対策を含め長崎県でも事業が進められているところであるが、具体策についてはまだ検討段階であり、必要に応じて市道や橋梁の拡幅などの対応が想定されているほか、スタジアムシティの開業による交通状況の変化も影響しており、警察からの指導を受けた上で県が交通シミュレーションを再度実施し、それに基づいて具体的な措置を講じるとされているため、県との連携を強化しつつ、ご懸念のないよう柔軟に対応したい。

【委員】

- ・前回指摘した内容について一定の整理をしていただいたことに感謝しつつ、言葉の整理やゾーン別整備方針に関する内容について具体的な方向性を求めたい。特に資料2のFゾーンで掲げる「浦上川の歴史（原爆・水害）を実感できる空間の形成」や資料3にある「平和を感じられる空間」については、単なる休憩広場に留まらず、追悼と歴史を理解できる場としての整備を検討してほしい。
- ・また、平和発信広場と命名されたCゾーンとの連携も非常に重要であり、整備方針においてこれらゾーン間のつながりを重視していただきたいと思う。
- ・さらに歩行者動線については、平和関連のエリアを多くの人が歩いて巡ることを前提とし、歴史を知り考える機会に寄与するサイン計画を、外国人観光客が増加している現状を考慮したわかりやすいものにしていただきたい。
- ・このような整備方針を今後進めていただくことを期待している。

【事務局】

- ・水辺空間におけるくつろぎと学びの空間の在り方について、具体的には解説サインを設置することでそれを明示する案が考えられ、今後検討していく必要があり、また浦上川との繋がりを示す動線については具体的な記述はないが、サインや歩道路面の表示など多様な方法があり、それらの中で最適なものを選定しながら整備を進めていく。

【委員】

- ・前回の指摘に関連して歩行者動線については、手段別や目的別に対応がしっかりされている。
- ・平和公園西地区の基本方針内の「長崎の新たな玄関口としての機能強化」に関する項目について、例えば長崎南北幹線道路の整備に伴う具体的な目的や方向性が他の項目に比べて不明瞭であり、渋滞緩和や安全安心、円滑な来訪者受け入れといった具体的な動機を明文化すべきではないかと思うが、事務局の考え方を確認したい。

【事務局】

- ・来訪者を迎える機能については、目的や配慮の方向性を明確に盛り込むべきであり、他の項目に比べて記載が少し不足していると感じた。追記したい。

【委員】

- ・築橋を通過して城山小学校に向かう青の点線コースでは、築橋付近で右折や左折をする車が少なく、直進することが多いが、その先の路地で交通事故が多発しており、安全対策として高架化を考える余地があるか。

【事務局】

- ・計画は現時点では存在しないが、意見があったことを長崎県に伝える。

【委員】

- ・資料2の「新たな玄関口としての機能強化」に関連し、歩行者動線計画が重要である。環境を考慮したパークアンドライドの実践が必要であり、車による混雑を減らし、歩行者動線を整備することが地域の魅力向上とゼロカーボンシティの理念に合致する。
- ・また、自転車の利用促進には専用道や駐輪場整備が必要であり、これらを考慮した拠点形成が望ましい。
- ・さらに、歩く意欲を高めるために季節を感じられる植栽や香る木の配置などまち全体の印象向上も重要である。
- ・駐車場の容量は問題ないかお尋ねしたい。

【委員長】

- ・すでにこの駐車場でパークアンドライドが行われていることを承知の上でのご意見と補足する。

【事務局】

- ・環境やまちづくりにおいて「歩く視点」が重要であると認識している。特に長崎におけるまち歩きは消費にもつながり、重要な要素である。松山町や平和公園の駐車場ではパークアンドライドを実施しており、修学旅行生の観光手段として利用されている。今後、自転車導入などを含めた整備の工夫を検討していく予定である。

【委員】

- ・資料2の歩行者動線計画に関する整備について、意見を取り入れていただき感謝する。
- ・車両台数の増加により、障害者優先の駐車スペースが別の利用者に占有される問題があ

り、この点の改善を検討してほしい。

- ・また、IゾーンからCゾーンにかけて、長崎の被爆地としての発信力の高さを踏まえ、Cゾーンへの動く歩道の設置を要望する。かもめ広場での設置は実現しなかったが、Cゾーンでは数十メートル程度で構わないので設置を検討してほしい、という意見を連合会として申し上げたい。

【事務局】

- ・今後も様々な視点を踏まえつつ、障害者への配慮を含めて検討を進める必要があると考えている。具体的なCゾーンについての要望として受け止めさせていただいた上で、物理的な制約も考慮しながら、あらゆる人が移動しやすい環境の整備を目指し、意見を活用しながら対応を検討したい。

【委員】

- ・最近の建築コストの上昇を受け、再開発の縮小や見直しが報じられている中、計画時にはコスト上昇を考慮する必要がある。特に市民総合プールの道路から見えるファサードデザインは景観上重要であり、コスト削減で見栄えが平面的にならないよう配慮すべきである。

【事務局】

- ・先に示した方針に基づき、広場と自然、そして大きな建物との関係を重要視している。我々の方針では、コストや工夫といった要素も含め、平和や多様な形との繋がりを考慮していく必要があると考えている。今後、意見や助言を踏まえながら配慮して進めていく。

【委員】

- ・資料2の動線に関して、他のエリアとの接続性を考慮した改善が必要である。公園地域内で動線が途切れており、それをつなぐことが重要である。
- ・また、サインの統一性について、スポーツゾーンや祈念像地区、爆心地公園など公園全体で一体的なデザインや管理ができるとよい。

【事務局】

- ・動線について、平和公園西区に限定せず、周囲の動線情報を追加することを検討中である。
- ・また、サイン計画については、既存の長崎市統一のサインに加え、西地区特有の特徴を反映した計画を行い、適切な形で進めていく考えである。

【委員】

- ・被爆をテーマとした平和の遺構を結びつけるマップや統一的な案内サインを作成し、西地

区と他エリアを一体的に連携させることで「平和」と「スポーツ」の意義を伝えたい。

- ・CゾーンやDゾーンの具体的な活用イメージがまだ湧かないが、例えば修学旅行生のオリエンテーションに適した広場の設計などが必要と考える。
- ・さらに、Bゾーンでは多目的利用が想定されるが、その具体的な運用方法を明確にするため、スポーツ関係者を巻き込んだワークショップなどの議論が必要である。

【事務局】

- ・今後の計画については具体的な方法を限定せず、ニーズに応じたやり方を模索する必要がある。ワークショップなどの提案も一例として参考にしながら、整備において最適な方法を検討していきたいと考えている。

【委員】

- ・基本方針②にある「安全安心を支える防災力を備えた空間」について、気候の激甚化を踏まえた具体的な取り組みを早急に示すことで、市民への説得力やこの場所の重要性を高めるべきと考えるが、現段階でどのような具体案があるか教えてほしい。

【事務局】

- ・防災力について、広場を防災拠点として一定の空間を確保することは重要であるが、具体的な整備内容は未定である。プールの建物は雨風をしのぐ避難場所としての可能性もあり、広場の防災機能を完全に損なうわけではないため、総合的に考慮しながら今後整備を進めていく考えである。

【委員】

- ・水害を考慮し工事は行われていると考えるが、気候変動による不確定要素を踏まえ、平和公園全体を安全安心が確保できるエリアとして整備するべきである。その際、トイレ問題なども含めて配慮してほしい。

(4) 平和公園再整備基本計画について

- 「平和公園（西地区）再整備基本計画報告書（素案）」について事務局から説明
- 質疑応答

【委員】

- ・3 ページの内容について確認である。平成6年に策定された平和公園再整備計画において、西地区が市民交流自然交流のゾーンとして示されており、今回議論している新たな計画ではその名称が変更されるのか、それとも以前の名称が継続されるのか。

【事務局】

- ・「平和を感じ、交流するゾーン」に変更となる。

【委員長】

- ・他にご意見はないか。
- ・無いようであれば、委員会で皆さんから多くの意見をいただき、目的としていたスポーツゾーンの再配置に関する原案は認められたと考える。
- ・ただ、交通面や弱者対策、観光客への配慮、西地区以外も含めたサインの統一性など、具体的な実施に関わる課題が残っている。これらを踏まえ、各担当に対応を進めていただきたい。
- ・委員会規則に基づき、今回の委員会を最後とし、最終案を市長に報告したいと考える。

【委員】

- ・長崎市スポーツ協会は市内 35 の競技団体を統括している。今回の平和公園の移転に関して 6 つの競技団体が該当しており、現状、陸上競技やプールの話が中心となっているが、他の競技団体からも要望や不満が寄せられている状況である。各競技団体の要望をしっかりと聞いてほしい。
- ・また、具体的な構想や説明が不足しており、競技場やトラックの内容について詳しい提示が必要である。
- ・さらに、ソフトボールの移転についても同様に具体的な規模や構造に関する説明が必要と思う。
- ・コスト面では、国からの補助金 51 億円について公園内移転時のみ適用される根拠が不明であり、その詳細な説明を希望する。

【事務局】

- ・質問に関連する補助金について、現段階では最大限の想定を提示しているが、具体的な整備計画が固まらない限り補助金の適用可否は不明確である。他都市の事例を踏まえると、公園区域内のプールは国土交通省の補助、公園区域外のプールは文部科学省の補助対象となり、それぞれ制度上の制約がある。また、プールの整備費用には軟弱地盤の影響で 20 億円程度の差が発生する可能性があり、補助金を含め財政的に難しい面があることから、現状想定に基づく資料を提示した。

【委員】

- ・説明は理解できた。
- ・51 億円という金額は、市が想定した金額か。国または県が提示したものではないということでもいいか。
- ・また、金額は市議会の委員会に提示したか。

【事務局】

- ・市が試算したものである。
- ・市議会の委員会に提示した。

【委員】

- ・前回の建設水道委員会では、51億円の金額が確定したかのように示され、多くの議員がその数字を基に松山町の競技場にプールを設置する方向性を支持した。しかし、その金額が正式な数字ではなく、誤解を招く可能性があるため、再度確認の必要性を感じた。また、市議会の委員会における資料提示には慎重さが求められると感じた。

【委員】

- ・この委員会が本日で終了することを踏まえ、長崎市は現在の方針を進める予定だと思いが、被爆者団体等の理解が十分に得られていない状況が続いている。2月7日以降の進捗状況、特に費用の問題を含めた整備基本計画の説明や今後の対応について確認したい。

【事務局】

- ・被爆団体への説明と理解を得るための対応を継続し、南北幹線道路や平和の伝承の場の重要性を踏まえつつ、今後とも協議を重ねて進めたい。

【委員】

- ・市長がこの案を進めると決めた場合、今後どんな手順で実現に向かうのか、スケジュール感を知りたい。

【事務局】

- ・現状の考え方として、スポーツ利用者が利用できない期間を可能な限り少なくする方針で進めている。中部下水処理場跡に陸上練習場を移す案であり、現在その建物解体が令和9年までに完了する予定である。解体が完了し練習環境が整わなければ、プールの移設も困難であるため、利用者への配慮を最優先しながらスケジュール対応を進めていく方針である。

【委員】

- ・現在議論中の平和公園西地区と下水処理場跡地のグラウンド間のアクセスについて具体的な計画があるか。
- ・また、防災面や市民の多目的利用を重視し、自然に調和し断熱性を備えた、新プール建屋の設計を要望する。

【事務局】

- ・距離的には約 1 キロ未満であると考えているが、公共交通アクセスが良い場所で検討しているため、アクセス改善について具体的な計画は現時点では存在しない状況である。

【委員長】

- ・他に意見等はないか。
- ・平和公園西地区再整備基本計画報告書について、委員の皆様にもう一度精読いただき、4 月 4 日までにご意見を事務局にお寄せいただければと思う。その後、本日の意見を加味して修正版を作成し、最終的には副委員長と私で確認・取りまとめを進めたいと考えているが、いかがか。

「異議なし」

- ・異議なしと認める。
- ・活発な議論をいただき、また、会議の進行に協力いただき、感謝する。

閉会

- 事務局より閉会の挨拶